

東京農業大学稲花小学校

学校だより【2021年1月12日】第68号



明けましておめでとうございます

新しい年を迎えました。たくさんの方々に応援していただきながら3年目を迎える本校ですが、心を新たに教育理念「冒険心の育成」の実現に向けて、児童の教育や学校運営にまい進してまいります。引き続きのご支援をお願い申し上げます。

なお、学校法人東京農業大学職員広報第379号(令和3年1月7日発行)に掲載されました「新年のご挨拶」の許可を得て転載いたしますので、あわせてご高覧頂ければ幸いです。

忍耐の冬休み

子どもたちとご家族の皆様との冬休みはいかがでしたか？ 本来なら短い冬休みは子どもたちにとって、クリスマス、お正月と楽しいことばかりになるはずでした。しかし、新型コロナウイルス感染症防止のため、帰省や娯楽のための旅行や友人や親族との会食を我慢したご家庭が多かったかと思います。子どもたちは、大人のふるまいを見て、社会における適切なふるまい方を学んでいきます。感染防止だけでなく、子どもたちの規範意識を育てるための我慢、忍耐であったともいえるでしょう。そして、様々な制限のある中でも、子どもたちがご家族と楽しく落ち着いた時間が持てたものと期待しています。年賀状も楽しく拝見しました。また、教育後援会プログラム「年賀状で発表しよう！みんなのチャレンジ2021！」にもたくさんの応募があったと聞いており、こちらについても拝見するのが楽しみです。

緊急事態宣言下の始業式

特別措置法の規定に基づく緊急事態宣言が1月7日(木)に発出され、その実施期間は1月8日(金)から2月7日(日)までの1カ月間、実施区域は、埼玉県、千葉県、東京都および神奈川県の一部3県となりました。本校では、感染防止を第一にしながらも1月8日(金)より3学期をスタートさせており、防止策ほかの詳細については、在校生保護者に「新型コロナウイルス感染症に対する本校の対応について(お知らせ)(1月6日付で配信)」で予めお知らせし、ご理解とご協力とをお願いしました。

始業式の朝、子どもたちが元気に登校してきました。校舎出入り口では手袋をはずし、アルコール消毒液自動噴霧器を使って消毒をしてから、教室へ向かいました。もちろん、教室入口での

手洗いも、今まで以上に念入りに行いました。寒くなり冷たい水を避けたい心理から手洗い時間が短くなる傾向がありましたが、新学期からは、まず液体石鹸を手に取り、必要時間十分に泡立ててから、蛇口の下で洗い流すという方式を採用しています。また、校内テレビ放送を利用した始業式の後、校長が各教室を回り、新型コロナウイルス感染防止についてのお話をする機会を設けました。

子どもたちへ

子どもたちは新型コロナウイルスをどのように考えているのでしょうか。ウイルスは目に見えないだけに、具体的な説明が難しいところがあります。校長から子どもたちへは、「ウイルスはとても小さく、電子顕微鏡という特別な顕微鏡でなければ見えないこと。(校長は、東京農業大学で電子顕微鏡を使っていたことがあります)」「口や鼻を通してウイルスがからだの中に入ってきたり、からだの外へ出て行ったりするので、マスクをきちんとすること。(鼻マスクの子どもはいないかな。マスクに触っている子どもはいないかな。)」 「息や唾が遠くに飛んでしまうので、大きな声を出したり、歌を歌ったりするのはしばらく我慢すること」「口や鼻だけでなく目からウイルスが入ることもあるので、顔にはなるべく触らないこと。(目をこすったり、鼻や口に指を入れたりする子どもはいないかな。)」 「それでも、手にウイルスがついてしまうことがあるので、よく手を洗うこと。」「しばらくは、お友だちに触ったり、お友だちの物や机に触ったりするのは我慢すること(本当は仲良くくっついて遊んだりしたいけれどね。)」を伝えました。最後に、「新型コロナウイルスの病気になった人たちを、お医者さんや看護師さんなど、たくさんの方が助けようとしていること。私たちが病気にならないようにすることは、お医者さんや看護師さんたちの仕事と同じくらい大切であること。」さらに「気をつけていても病気になってしまうかもしれないのは、誰もが同じ。病気にかかった人には優しく、早く元気になるように応援すること」を話しました。全教室を回りましたが、1年生も2年生も、真剣に話を聞いていました。

第一回学校説明会

1月15日(金)夕刻および1月16日(土)には、今秋の入学試験に向けての2021年第一回学校説明会をリアルタイム配信で合計3回行います。昨年秋の入試では前年度より大幅増の志願者があったことから、今秋の入試についても着実な運用を行う決意です。一方、新型コロナウイルス新規感染者数が減少しない現在、オンラインでの説明会となります。オンラインの良さを活用して、より多くのご家族が本校への理解を深めた上で受験についてお考えいただけるように努めてまいります。

今年は丑年

緊急事態宣言の発出もあり何かと心忙しい毎日ですが、今年は丑年。本校の教育理念「冒険心の育成」の由来となった「冒険は最良の師である」は東京農業大学の創設者である榎本武揚公がオランダ語で記した言葉です。榎本公は1873年(明治6年)、現在の千代田区飯田橋1丁目に北辰社牧場をスタートさせています。この牧場では乳牛を飼い、当時の日本では珍しい牛乳を生産していたそうです。榎本公はオランダに留学していたことから、牛乳や乳製品の重要性をよく理解していたに違いありません。「北辰社牧場跡」の碑も立てられており、そこから徒歩10分ほどの飯田橋駅そばには、「東京農業大学開校の地」の案内もあります。



農大稲花小でもほぼ毎日、給食に瓶牛乳を提供していますが、明治時代には都心に牧場があって、牛乳が生産されていたこと、子どもたちの“榎本先生”がそれにかかわっていたことなどを知るの楽しいですね。

校長 夏秋 啓子